

ぱるす

発行日 2003年3月25日 第12号
発行 札幌歯科医師会立口腔医療センター
〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目
TEL (011)511-7774 FAX (011)511-1530
<http://sasshi3.pobox.ne.jp/>
E-mail sasshi@dnet.or.jp
発行人 小林重行 発行責任者 鶴岡一彦

ぱるすで会いましょう



口腔医療センター企画研修部部長

中澤 潤

ぱるすは今回で第12号になります。ぱるす1号の発刊が平成11年6月ですから月日の立つのは本当に早いんですね。

これまでとてもたくさんの方がぱるすに文章や詩、折り紙や絵などを寄せてくださいました。

おかげでいろいろな方にぱるすの中で出会うことができました。

口腔医療センターには患者さん、患者さんのお父さん、お母さん、スタッフや担当医など、とてもたくさんの方がいらっしゃいます。中にはよく知っている方もいれば、ちらっと顔を見たことのある方、さらには全然会ったことのない方もいるかもしれません。

でも、ぱるすに参加することで日々の出会いとはまた違う新たな出会いを体験することができます。ぱるすにどんどん参加してください。文章だけでなく工作や絵などでも大丈夫です。リピーターも大歓迎です。

これからも読みやすく、さらに内容も盛りだくさんになるように努力しますのでよろしくお願ひします。



ぱるすのバックナンバーが札幌歯科医師会ホームページに載っています。

<http://sasshi3.pobox.ne.jp/center/puls.htm>

そのことが日本障害者歯科学会の学会誌第23巻4号(平成14年10月31日発行)で詳しく紹介されました。

たくさんの方に読んでもらえそうです。全国的に有名になったようでちょっと嬉しくなりました。

皆様のご意見・ご要望などもどんどんお寄せ下さい。



稲本香織さんのお母さん 稲本恵子さん

平成元年、小学校1年生の時、急にほっぺたが腫れてもしかして虫歯？とあわてて口腔医療センターに行ったのがお付き合いの始まりで、診察台にはネットを掛けて寝かされ、緊張と不安でギャーギャー泣き叫ぶ娘を見て、私もこの先どうなるのか、心配やら恥ずかしいやらと複雑な思いでいたことを昨日のこのように覚えています。あれから15年小さかった香織も今年成人の仲間入りをしました。

身長165センチ 体重は内緒だけど、見た目はなかなかのスタイル・・・でもないね。

だって最近お母さんに似てきたしね。

浜崎あゆみとガクトが好きで氷川きよしも大好き! 性格はとってもはずかしがり屋で、15年通ってる口腔センターのスタッフの皆さんでも、泣き声以外聞いたことがない程です。

でも、家ではうるさいぐらいのおしゃべりで好奇心旺盛、家と外では別人のような娘です。

施設通所を始めて今年で6年目、友人関係、行動範囲にあまり変化がなくなり、ちょっと親としての責任を感じるこの頃です。

娘は重度の知的障害、母は更年期障害のおまけ付きの親子ですが何処かで見かけましたら、恐れることなく声をかけて下さい。待ってま〜す!



障害児者にも暮らしよい街に!!

きらいゆう

喜来優さんのお父さん

喜来 業康さん



優(高等部1年の娘)が小学部3年頃から、口腔医療センターへ定期通院しています。家は清田区里塚なので、かなり離れていますが、送迎をする私にもあまり苦になりません。

安心して診察が受けられるからだと思います。

小学部の時は一緒に診察室に入っていました、中学部に成った頃から本人だけが診察室に入り、治療や指導を受けています。

優は、優しいお姉さん(歯科衛生士さんたちのことを娘はそう思っています)に歯磨きをしもらうのが楽しいのです。先生も優しく治療してくださるので、怖がることは未だ一度も無いように思います。

さて、いよいよ4月から、障害児者のための支援費制度が始まります。障害のある人が、施設に入らなくとも住んでいる地域社会の中で、人々と同じように必要なサービスを受けながら暮らしていけるようになると期待されています。

口腔医療センターにも家族の人以外のガイドヘルパーさんと一緒に通院できます。

しかし、この制度が当初の理念どおりに実現されるのはまだまだ先に成りそうです。

国や地方の予算に左右され、弱者、障害者のことは後回しという体質はなかなか変わらないようです。

でも、へこたれずに、みんなで利用しながら、不都合を改善してもらいましょう。

また、市民のネットワークをつくり、子供も、高齢者も、障害者も社会の構成員であることを理解出来る地域社会を、住みよい街を造っていきたく願っています。



スタッフの皆さんへ ただ感謝

川代朝子さんのお母さん 川代 和子さん

娘 朝子と、口腔医療センターとのおつき合いは古い。
家を出る時から「座る」と何度も自分で自分に言い聞かせ、西11丁目からバスに乗る時には、もう半べそ状態。診察室に入っても、あんなに自分に言っていたのに結局治療台に座れないという時期が結構長く続いた。

小学校低学年の時に、宿泊先の二段ベッドから落ちてストップに歯をぶつけ、瞬時に前歯1本が抜け、1本が折れるというアクシデントが発生。

さし歯などで落ちついていたと思ったら、やはり根にダメージを受けていて、高校入学後、全身麻酔で前歯2本を抜歯。

検診だけでも強い抵抗を示してきた子が、治療のため何度も通院する必要に迫られた。

センターのスタッフの皆さんには、その都度、親以上の忍耐強さで接していただき包容力ある優しさと治療の見通しを理解させようとする熱心さのお陰で、最近では1人で受診できるようになり、ここまで何とかやって来れたことに感謝の気持ちで一杯です。

娘のような拒否反応の強い子の頼りがいのある歯科治療の場として、今後とも身近にあり続けていただきたいと思います。



センター受診前日にレイアウトを考えて一診のドアに作品を貼っています

感謝 感謝

前田健太郎さんのお母さん 前田 ゆかりさん



ひょっとして20年近くお世話になっている、と思う(23才現在)自閉、超固執 故 交通機関を使用して通うと云う事実が、当時の私にとって「ウモン」闘い!」だった、息子の幼い頃——誰にも理解されない状態のまま、ズタボロになって、バスを降り、受け付けにたどりつき やっと、やっと、やっと息のできる瞬間を得られる……という連続だった。

様々、紆余曲折あった現在は、精神年齢2才3カ月の息子は、定期検診を楽しみに 歯ブラシ等を自ら用意し、私は仕事の休日の設定を依頼し、「その日」を大切にしている。

夜勤明けのパパを叱咤し、クルマを出してもらおう「健ちゃんのための時間」

私の運転で行くこともあるし、この先、娘の運転かもしれないし、私たちの生活状況も変わっていったり前!の覚悟。みんな、みんな、そう。

これから、決して若くなることのない、私たちの「尊い時間」になるでしょう。

輝く笑顔のスタッフの方々の「使命感」を本当に実感。ただ、感謝



本の紹介

子どもの拒絶に困ったときを読んで

網島 啓くんのお母さん

網島 和子さん

普段、なかなか聞くことのできない、先生の「子ども」への想いがここには語られています。

治療中も普段のままでいられるように呼吸や心の波に合わせるなど、全力を尽くして沢山の工夫をこらしながら診療されている、その一端を垣間見た思いです。

そこに同席する親のあり方についても考えさせられました。

先生が目指されているエステのような歯科診療を、一緒に目指したくなってしまふ そんな気持ちにさせてくれる本です。



水曜日午後から担当されている
北海道大学歯学部附属病院講師

小島 寛 先生の本が障害部待合室においてあります。

砂書房発行

著者 小島 寛



荻谷昭吉さんの作品



折り紙の名人 荻谷昭吉さんがひな人形をくれました。すばらしいできばえに感激してしまいました

施設職員対象講習会～道立肢体不自由者訓練センター～行ってきました



口腔医療センター 障害者診療部

歯科衛生士 工藤 由加里

第6回 施設職員対象講習会

日時:平成15年2月12日(水) 14:00～

場所:道立肢体不自由者訓練センター

毎年行っている施設職員対象講習会も今年で第6回を数えます。

近頃施設に入所している患者さんのお口の中がとてきれいなになっています。

施設職員の先生が熱心に口腔ケアに取り組んでいる姿勢を見ていると大変うれしく思います。今年2月12日(水)に手稲稲穂にあります「道立肢体不自由者訓練センター」へ行って参りました。日頃入所している方々の歯磨きを介助、実践している職員のみなさんを対象に基本的な虫歯や歯周病についての知識を理解していただき実際の歯ブラシ介助のポイントや予防法などお話ししてきました。当日、参加された職員の人数は24名でした。



虫歯編



歯周病編

左の写真は講習に使われた資料の一部です。

たくさんの写真や絵を使って分かりやすく説明しました。



みなさん熱心に耳を傾けてくださり、講習会後の質疑応答でも積極的なご意見をたくさん頂きました。

その中の内容として「歯ブラシ圧はどれくらい？」「歯ブラシの選び方は？」

「歯ブラシの動かし方のちがいは？」「歯石になってしまう期間はどれくらい？」

「理想的な定期検診の期間は？」「上手にお口を開けられない、緊張があって思うように歯磨きできない」などなど…

やはり肢体不自由児者の歯磨きは障害の程度がさまざまで、能力の個人差があり十分に清掃出来ないことが多いと思います。また、介助者にとっても口腔ケアは複雑で負担のかかる仕事とわかってしまいがちです。

『健康な歯や歯ぐきでおいしく食べたい！』これはみんなの願いです。

特に自分のお口のケアを行うことが困難な方に対しての適切な口腔ケアは欠かせません。

無理せずできる部分から少しずつ日常生活の習慣の一つとして受け入れられるよう工夫していただけたら…と思っております。

最後に口腔医療センターでは施設職員の皆さんを対象に口腔ケアに関する講習会を行っております。

日頃入所されている利用者さんへの歯磨きでお困りの点がありましたら、どうぞ気軽にご相談下さい。





口腔医療センター 摂食・嚥下リハビリ症例発表会開催

センターでは摂食外来を平成10年4月に開設し、以来5年にわたって摂食・嚥下指導を行ってきました。毎年2月には1年間の指導の成果をまとめ、さらなる知識、技術の研鑽のため担当医による症例発表会を行っており、今年で3回目になります。本年度は2月1日(土)に開催されました。演題は10題、参加者も55名と規模も大きくなり、活発な質疑応答が行われました。

第4回介護・口腔ケアセミナー開催



センターでは在宅や療養先で介護や訪問診療に携わる看護師、ヘルパー、衛生士などの方々に口腔ケアの重要性とその方法を講義と実習でわかりやすく修得していただく「介護・口腔ケアセミナー」を開催しています。今年度4回目の講習が2月14日(金)に札幌会館5階大講堂で午後7時より開催されました。

今回は54名のヘルパーさんが出席、仕事の後の疲れにも負けず熱心に聴講しておられました。



お口の中がさっぱりするとおいしく食べることが出来ます。写真は寝たきりの方でも、むせずに上手に磨けるように工夫されたグッズです。

救急診療部からのお知らせ

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。継続的な治療は受けられませんのでご注意ください。

診療のご案内

診療時間 19:00～23:00
年中無休
電話番号 011) 511-7774

障害者診療部からのお知らせ

障害者診療部は完全予約制になっております。診療ご希望の方は、下記の時間帯にご予約下さい。

月～金 9:30～12:00
電話番号 011) 512-9497



ミニトマトは今や・・年中スーパーの店先に並んでいます。でもたとえハウス栽培でも日光の力が強くなる今頃からだんだん甘くなってきます。やはり自然の力は偉大です。そんなことから春が近いことがわかります。何かジジ臭いって別に隠していたわけではないけれど、ちょっとだけディスク・ジョッキーの経験があります。

手紙やはがきが寄せられると元気を分けてもらった気がして、とても励みになりました。この3年間時々そのことが思い出されました。

これからも皆様のお手紙や作品をお待ちしております。何かキザっぽいって)

中澤 潤企画研修部長